



「北風と太陽」

日本語子音の国際音声記号例示のための汎音版*

比企 静雄 (早稲田大学ことばの科学研究所)**

1. International Phonetic Alphabet (IPA)

「北風と太陽」The North Wind and the Sun という検査文を見る機会が多い。それは、国際音声学協会 International Phonetic Association (IPA) が 1949 年に出版した *The Principles of the International Phonetic Association; being a description of the International Phonetic Alphabet and the manner of using it, illustrated by texts in 51 languages* で、提案する International Phonetic Alphabet (略は同じ IPA, 国際音声記号) の例示に使って以来である。英文では次のとおり。

“The North Wind and the Sun were disputing which was the stronger, when a traveller came along wrapped in a warm cloak. They agreed that the one who first succeeded in making the traveller take his cloak off should be considered stronger than the other. Then the North Wind blew as hard as he could, but the more he blew the more closely did the traveller fold his cloak around him, and at last the North Wind gave up the attempt. Then the Sun shone out warmly, and immediately the traveler took off his cloak. And so the North Wind was obliged to confess that the Sun was the stronger of the two.”

これに先立つ 1864 年に、Edinburgh, Scotland の Alexander Melville Bell が聴覚障害児の発音指導のために、音声を精密に表記して発音できる記号体系 Visible Speech を発表した。世界の諸言語の音声の記録にも役立つことが注目され、その図形的な記号を通常の活字の組み合わせで実現したのが IPA である。子音は声道の唇から声門までの調音位置 Place of articulation で列に並んでいる。Bell の記号には近年の音声科学での弁別素性 Distinctive feature などにつながる重要な視点が組み込まれていたが、IPA では調音方法

Manner of articulation の行にまとめられた。

その後 IPA は、多くの辞書で使われるようになり、応用の分野も、当初の実験音声学や語学教育から、言語治療や情報処理にまで広がったために、実用的に不備が生じてきた。そこで Peter Ladefoged (UCLA) が関係者を Keel Convention, 1989 に集めて、IPA の改定作業をして、*Handbook of the Phonetic Association: A guide to the International Phonetic Alphabet* が、翌年に出版された。

Department of linguistics, University of Victoria, Canada のサイトから *Handbook* の音声ファイルを聴くことができるし、University College London から The Sounds of the IPA や IPA Sounds in a clinical context などの CD も入手できる。また、IPA のフォントは <http://scripts.sil.org/encore-ipa-download> から最新の精密なものをダウンロードできる。

2. 「南風と太陽」

この *Handbook* でも例示には「北風と太陽」を使っている。IPA は英国など北半球の言語を対象に始まったので、The North Wind が自然であった。テキストの出典を指定していないが、*The Principles* に英語方言の例示に使われた前記の英文が各国語訳になっている。しかし現在では南半球の諸国にも広がっており、そこでは冷たいのは「南風」である。

今回の *Handbook* に収録された例示は 21 の言語であるが、その後の追加が Journal of the International Phonetic Association (JIPA) の最近号までに、すでに 60 近い言語や方言について掲載されている。そのうちの New Zealand English (Laurie Bauer et al., Victoria University of Wellington) では、地理的・文化的に適切なようにと断って、題目を「南風と太陽」The Southerly Wind and the Sun に代えている。

The Harvard Classics から 1909 年に出版されたものなどでは、表題が「風と太陽」The Wind

* A Panphonic version of “The North Wind and the Sun” for the illustration of the IPA of Japanese consonants.

** Shizuo Hiki (Language and Speech Science Research Laboratory, Waseda University)

and the Sun になっているので、折衷案として利用できる。

3. 検査文の選択

日本語の IPA の例示のための The North Wind and the Sun の和訳は、1912 年頃の IPA の協会誌 *Le Maître Phonétique* に伊地知純正や市川三喜の転写案が載っており、1926 年の音聲学協会会報第 1 号にも、佐久間鼎、神保格などが、各地の方言の表記の提案まで持ち寄っている。*The Principles* に最終的に使われたのは、当時の尋常小學校國語讀本によるもので、「或る時、日と風が力比べをしました。」で始まる。「北風」ではなくて「風」であった。

音声を扱う研究では、多様な検査のための音声材料が使われてきたし、音声指導の教材や音声システムの品質評価やデータベースの作成などの実用面でも需要も増えている。しかしこれには、検査の目的に応じて必要となる音声の性質がいかにかに的確に含れているかが、得られる結果を左右する。

そのような観点からは、「北風と太陽」の各言語訳がそれぞれの目的に十分な条件を揃えている

はずはない。David Deterding (National Institute of Education, Singapore) は、The North Wind and the Sun が、子音が全部は含まれていないし、リズムや母音の音響測定に不都合であるからと、イソップ童話の「少年と狼」The Boy who Cried Wolf を使った短い検査文を JIPA に提案している。

4. 日本語の汎音版

日本語訳でも、拗音が少ないなどの音韻の出現に偏りがあることを、*Handbook* の日本語の IPA の例示を執筆した岡田秀穂 (早稲田大学) も指摘している。そこで、日本語 (東京方言) の基本的な子音を下の IPA による調音マトリックスのように設定して、子音の音素 Phoneme の 16 種と主要な異音 Allophone の 10 種とをすべて含むような、IPA 例示のための「北風と太陽」の汎音版 Panphonic version を試作した。

このような汎音版の手法は、今後、各方言の IPA 例示へ拡張したり、その他の種々な目的のための音声の検査文の作成へ応用したりして、有効に活用できると思われる。

日本語子音 (東京方言) の IPA による調音マトリックスと IPA 例示のための「北風と太陽」の汎音版

方法\位置	両唇	唇歯	歯	歯茎	後部歯茎	歯茎口蓋	硬口蓋	軟口蓋	口蓋垂	声門
破裂音	/p/ /b/		/t/ /d/					/k/ /g/		
鼻音	/m/		/n/			n		ŋ	/N/	ĩ
弾き音					/r/					
破擦音				/ts/ dz/	d	/tʃ/ dʒ/				
摩擦音	ɸ /β/ /v/		/s/ /z/			ç z	ç	/y/		/h/
接近音					/r/		/j/	/w/		
側面接近音					/l/					

(実線で囲った音素 / / から点線のように派生する異音。 < > は発話者や発話速度によって生じる場合がある。)

「北風と太陽が、どちらが強いかで言い争っているところへ、旅人が暖かそうな上着にくるまってやってきました。そこで、その旅人の上着を脱がせた方が、強いということにしようときめました。まず始めに北風が、旅人に向かってせいっぱい吹きつけました。しかし、乱暴に吹けば吹くほど、逆に旅人は上着をしっかりと体にまとい付けるので、脱がせることができません。北風はくたびれて、とうとうあきらめました。今度は太陽の番になりました。太陽が、旅人の上から暖かい光をやんわりと注ぐと、やがて旅人は自分から上着を脱いでしまいました。それで北風は残念ながら、太陽の方が強いと認めなければなりませんでした

(⁺はアクセント核, ||・|は . . . その他の音調区分。)

[kɪtakazeto ta⁺ijɔːŋa | do⁺ tɕiɾaŋa tsujo⁺ikade | iːaɾaso⁺ tte iɾu tokoɾo⁺e | tabibitoŋa atakaso⁺:na uwaŋi ni kuɾuma⁺ tte | jattekima⁺çita || sokode | sono tabibitono uwaŋio nuŋa⁺seta ho⁺:ŋa | tsujo⁺ito juː koto⁺ni çijo⁺:to | kimema⁺çita || ma⁺zu hazimeŋi kɪtakazeŋa | tabibitoŋi mukatte seːi⁺ppai ɸukitsukema⁺çita || çika⁺çi | çamboːni ɸuke⁺ba ɸuku⁺hodo | gjakuŋi tabibitowa | uwaŋio çikka⁺ɾito kaɾadani matoitsuke⁺ɾunode | nuŋase⁺ɾu kotoŋa dekimase⁺N || kɪtakazewa kuɾabi⁺ɾete | to⁺:toː akiɾamema⁺çita || ko⁺ndowa | ta⁺ijɔːno ba⁺ŋni naɾima⁺çita || ta⁺ijɔːŋa tabibitono uekaɾa | atataka⁺i çikaɾio jaũwa⁺ɾi soso⁺ŋuto | jaŋate tabibitowa dzibuŋkaɾa | uwaŋio nu⁺ide çimaima⁺çita || soɾede kɪtakazewa dzannenna⁺ŋaɾa | ta⁺ijɔːno ho⁺:ŋa tsujo⁺ito | mitomena⁺keɾeba naɾimase⁺ndeçita ||]